

授業科目 比較文化学特論 I	単位 2 単位
授業担当者 岸上 伸啓	授業期間 前期・金・2 時限
授業の題目と概要 「社会・文化に関する人類学的アプローチ」 この授業では、構造主義、認識人類学、解釈人類学、エスニシティー論、環境人類学、ジェンダー論、開発論、実践論など人類学的な研究方法や視点について紹介し、検討する。	
授業の内容と計画 授業では、『文化人類学 20 の理論』（綾部恒雄編、2006 年）をテキストとして、下記の研究のアプローチや視点について検討を加える。 (1) 文化人類学的な視点とアプローチについて、(2) 文化の概念と文化相対主義、多文化主義、(3) 構造主義、(4) 唯物論的アプローチ、(5) 認識人類学、(6) 象徴人類学、(7) 解釈人類学、(8) エスニシティー論、(9) 環境人類学、(10) 医療・身体論、(11) ジェンダー論、(12) 開発論、(13) ポストコロニアル論と民族誌論、(14) 実践論、(15) 総括	
使用する参考書、参考論文等 綾部恒雄編 2006 年 『文化人類学 20 の理論』 弘文堂	
成績評価基準 出席、口頭報告と議論への参加、レポートをもとに成績をつける。比重は、それぞれ 3 分の 1 ずつとする。	
その他の留意事項 授業は、講義と受講生の口頭発表、受講生を交えた討論からなる。	